

# 令和6年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

川島町立つばさ南小学校

## 1 育成する能力

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度

## 2 研究概要

### (1) 取り組むSDGsの目標



### (2) 研究主題

世界にはばたく人財が育つSDGsの実現に向けた教育の在り方

### (3) 研究仮説

現在、世界中において、これまでに経験したことのない多くの課題に直面している。予測困難な時代を生き抜くためには、一人一人が様々な課題を自分事として捉え、向き合い、解決する力を備えられることが求められる。

そこで、これまでの学校教育の成果を生かしながら、SDGsの視点を入れた取組を実施する。取組みを通して、7つの能力と態度を育成し、困難な時代を生き抜く力を備えた児童生徒が育成できるのではないかと考える。また、川島町で、価値づけの統一を図ることで、誰一人取り残さない教育を実現することができるのではないかと考える。

## 3 企業・団体との連携

### (1) 連携・協働した主な企業・団体

- ① 凸版印刷株式会社
- ② 武州ガス株式会社
- ③ 日本生態系協会
- ④ 埼玉中央農業協同組合
- ⑤ JA 全農さいたま
- ⑥ 大阪万博 EXPO スクールキャラバン  
パナソニックホールディングス株式会社

## (2) 連携・協働した主な内容

○対象学年 第 3 学年

○教科等名 総合的な学習の時間

○主な取組内容

- ・年に数回、三ツ又沼ビオトープにおけるフィールドワークの実施  
(県の蝶であるミドリシジミが舞うハンノキ林の観察、外来植物の駆除等)
- ・植え戻したハンノキの継続的な観察
- ・総合的な学習の時間における調べ学習・新聞作り等の活動、まとめの発表 等
- ・自分達ができることについて考え、動画の作成
- ・カワラナデシコの植え戻し

○対象学年 第 5 学年

○教科等名 総合的な学習の時間

○主な取組内容

- ・米作りについて学習する。
- ①種まき②苗床づくり③肥料まき④代かきの見学⑤田植え⑥稲刈り…
- ・ゲストティーチャーと連携し、よりよい米作りについて学ぶ
- ・田植え(全校)をし、稲の生長の観察をする。
- ・米について様々な視点で調べる。(米の種類、歴史、産地、日本と外国のお米の違い等)
- ・全校での稲刈り
- ・食品ロスについて学習し、自分たちにできることについて考える(JAと連携)  
→川島町でとれる作物を使ってのピザづくり。レシピを作成、配付
- ・地産地消を進める活動について考える。

○対象学年 第 6 学年

○教科等名 総合的な学習の時間

○主な取組内容

- ・川島(地域)の伝統を守ることをねらいとし、川島町の伝統文化等について調べる。
- ・川島町の伝統文化、芸能等の調べ学習。
- ・3年前に植え戻したハンノキの観察や在来種や外来種の観察。
- ・総合的な学習の時間における調べ学習・新聞作り等の活動、まとめの発表 等
- ・自分達ができることについて考え、動画の作成。→川島町全体発信。

○対象学年 第 4～6 学年

○教科等名 学級活動

○主な取組内容

- ・パナソニックホールディングス株式会社が用意した素材を児童達の想いや工夫によって新しい商品を考える授業。  
例) タングステン極細線(素材名)を素材の特徴を生かして、人々の役に立つ物に変換する。
- ・変換する際は生成AIを活用し、タブレット端末でマテモン(マテリアルモンスターの略)を作成する。
- ・全体でマテモンの発表を行う。

4 研究内容

(1) 研究組織・研究の流れ・取組

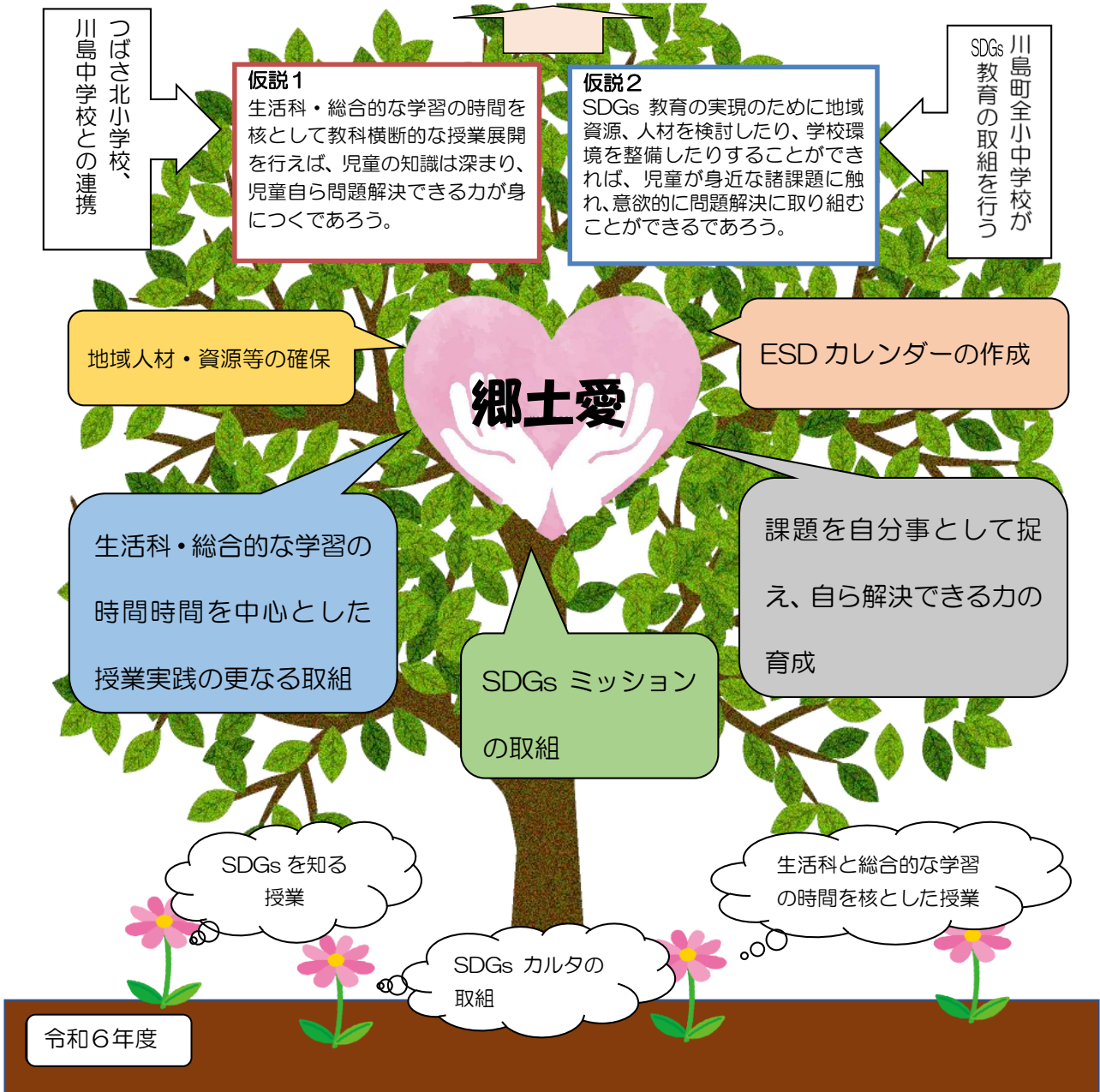
研究構想イメージ図

学校教育目標 ・やさしく ・かしこく ・げんきよく  
目指す児童像  
**地域とつながり、未来を拓く みなみっ子**

令和6年度川島町の研究主題・本校の副題

世界にはばたく人材が育つ SDG s 教育の在り方

～郷土を愛し、未来へつなぐためにわたしたちにできること～



## 5 成果と課題

- 児童生徒の変容
  - ・SDGs教育が当たり前になり、児童自らできることを見つけて行うようになった。  
例) 堀のゴミ拾い、給食残菜キャンペーン等
  - ・児童が自ら課題を追求し、それを発信する活動を意図的に取り入れたことで、課題を自分事として捉え、自ら解決しようとする態度が育成できた。
  
- 学校全体の変容
  - ・ESDカレンダーを作成したことで、教科横断的な視点が可視化され、普段の授業でも意識的に指導が行えるようになった。また児童も総合的な学習の時間と他教科で往還した学びが見られるようになった。
  - ・SDGsミッションを行うことで普段から「17の目標」を意識して教育活動を行うことができた。
  
- 連携した企業・団体の声
  - ・川島町の特産物を使ったピザ作りを行うことで、川島町の良さを知ると共に、地産地消の取組を行うことができて良かった（5年）
  - ・三つ又沼ビオトープでの現地調査を数回重ねたことで、三つ又沼の動植物について深く知ることができた。また学習を通して、在来種を守っていこうとする意欲を育成することができた（3年）
  
- 令和7年度に向けての課題
  - ・本町の地域資源等を考えると企業との連携が難しい。
  - ・企業との連携を続けていくと、どこから児童に委ねて、どこまで教師がファシリテートしていく必要があるのか見極めが難しい。